



燕市「読解力」育成プロジェクト通信

「読解力」育成プロジェクト全体研修会

11月7日（木）、分水中学校を会場に、「読解力」育成プロジェクト全体研修会を開催しました。市内から教職員、教育関係者など、約80名が集まりました。分水小学校と分水中学校の研究主任による読解力育成の取組についての説明、分水中学校の燕長善タイムの公開、一般社団法人教育のための科学研究所代表理事・所長の新井紀子様のご講演を通して、読解力育成の方策について研修を深めました。

（参加者の感想の一部）

・リーディングスキル（RS）は、自分の考えをアウトプットするための土台作りになるということに深く納得しました。リーディングスキルテスト（RST）の結果をもとに、「得意なこと」「つまづいたポイント」「授業で思い当たる点」「その子の意外な一面」を教師が分析することが重要であるということが分かりました。また、1分視写の本来の意味について再認識することができました。視写が目的化しないように適切な分量で適切な課題を教師が選択し、子どもの課題外在性認知負荷をトレーニングすることで、下げる必要があると感じました。

・恥ずかしながら、今回の研修でRS本来の目的、本質への気づきを再認識することができました。生活言語と学習言語の違い。私たちは知らず知らずのうちに専門用語を使うことに違和感なく、むしろその方が専門家であるかのように、説明もなく子どもたちに使用していたことに深い反省を覚えました。今までの自分を俯瞰し振り返り、今後の改善に生かしていきたいです。また、板書を共書きするために目指している視写ではありますが、写した文字を教えるときの工夫として、用紙のマス数に配慮をする方法があることをお聞きし、奥の深さを感じました。机間巡視の必要性やどこに視点を置いて生徒を見取るのか、声掛けをするのかなども明瞭になりました。課題外在性認知負荷を下げるために、深く手厚く支援するのは、常々教師の自己満足になってはいないか危惧していたのですが、トレーニングで負荷を下げることに今後の私たちがやるべき方向が示唆されておりありがたかったです。素晴らしい研修をありがとうございました。



分水小学校と分水中学校の研究主任による読解力育成の取組についての説明、新井紀子様のご講演の動画を、燕市教職員限定ホームページ「つばめつながる広場」で公開します（新井紀子様のご講演については、12月6日～1月6日までの期間限定配信になります）。ぜひご覧ください。

読解力育成先進地域視察研修～福島県相馬市～

10月31日（木）と11月1日（金）に、教職員2名と指導主事3名で、福島県相馬市の視察を行いました。相馬市は、令和2年度から学校教育の重点目標に『RSTの活用』による『読解力の向上』を掲げて取組を進めている地域です。1日目は、市指定の研究推進校である八幡小学校の研究会に参加し、2日目は相馬市教育委員会にて情報交換会を行いました。

（参加者の報告書より）

・視察で見たRSノートにもあったように、長善タイムがどれだけ思考させる活動になっているかが重要になると感じた。「量」だけでなく、「質」を求めるような長善タイムにすることで、児童のRSをより伸ばしていく長善タイムを目指す。

・RSノートの実践や問題を校内に掲示することにも積極的にチャレンジしていきたい。全校で共通理解を図り学校力を上げていくことで、RSが少しずつ浸透していくことができるよう、取り組んでいきたい。



今回の視察に参加した教職員の報告書を、燕市教職員限定ホームページ「つばめつながる広場」で公開しています。こちらもぜひご覧ください。